

情報の構成(3) + α

2012.6.26

マニュアルライティング (2012 年度)

本日の内容

- レポートフィードバック
- UI 設計との関連

連絡事項

- 第 3 回レポート課題提示（※切：7/3）
- 7/3 は実習
→題材は第 3 回レポート課題

アンケートフィードバック

- 講義資料の配布前倒し要望
- 個人的意見を聞きたい
- 実例多めで
- その他

レポートフィードバック (1/7)

課題要件の復習

- ネットワーク情報学部のご案内冊子（紙媒体）用の構成案
- 構成案の情報レベルは 3 階層
- 現状で不足気味と判断する情報を補っても OK
- 目的とコンテキストを意識する
- 専門科目（別表）をコンテキストを意識してグルーピングして、タイトルを付ける

レポートフィードバック (2/7)

前提条件の欠如

- 「対象ユーザーは誰か」「対象ユーザーの求める情報は何か」など、最低限の前提を明確にする
- 対象ユーザーを決めただけで満足しない
→ 「ユーザーの利用状況」に対する洞察が必要
- 冊子自体の目的を明確にする（ビジネスゴール）

レポートフィードバック (3/7)

媒体特性の考察

- 目次＝サイトマップではない
- 順序を持った情報をどのような基準で配置するか
(紙媒体冊子の特徴)
- 内容が固定されるメディアと更新可能メディア
の違い

レポートフィードバック (4/7)

グルーピング

- ツリー構造に拘りすぎないように
- ユーザーの目的・動機に直結する情報、訴求ポイントはできるだけ上位階層に配置
- グループ間の情報量のバランスを意識する

レポートフィードバック (5/7)

ラベリング

- 「想定ユーザーがタイトルだけで内容が推測できるように」をもっと意識する
- 全部のタイトルを見渡して、情報の分類基準を感じられる（統一感がある）方が望ましい
- 必要に応じて補足説明を加えることも効果的

レポートフィードバック (6/7)

視覚表現

- 階層構造（分類）を把握しやすくする
 - 上位階層やグループ見出しの強調
 - 情報のブロック感の表現
- 「階層構造の表現＝入れ子」とは限らない
- マインドマップ系の表現は目次ではない

レポートフィードバック (7/7)

復習を兼ねて…

- 説明対象を把握する
- コンテンツ要件を明確にする
- 必要な情報を用意する
- 構成案を作成する

UI 設計との関連 (1/6)

マニュアル作成の視点を持つことで…

- ユーザータスク単位での指示手順の長さ・分量を把握する
- フィードバックの意識
- 「ユーザーは説明を読まない」ことを前提に、説明がなくても理解できる・操作できるように
→説明を追加しなければならない原因は何か？
→説明せずに済ます対策はないか？

UI 設計との関連 (2/6)

カップ焼きそば



UI 設計との関連 (3/6)

カップ焼きそば



UI 設計との関連 (4/6)

カップ焼きそば



UI 設計との関連 (5/6)

「説明すれば OK」ではない



UI 設計との関連 (6/6)

SUICA

- 「技術仕様に基づいて詳細な操作指示」ではない
- 「タッチ & ゴー」というキャッチフレーズで UI の問題を解決
→ 機器側の反復テストによる試行錯誤も貢献

業務設計との関連

マニュアル作成の視点を持つことで…

- 正しい手順以外は許容しない
- 正しい手順をユーザーに自然に想起させる
- 正しい手順がユーザーにとって一番負担が少ない

課題レポート [第3回] (1/2)

カップラーメンの調理法マニュアル

- 仮想の商品仕様書を読解の上、手順を構成する
→仕様書は 6/26 中に公開
- ユーザーの目的を意識すること
- 文字情報中心で構成すること
→カップ印字を前提とした形状の制約なし
- 手順分岐の扱いに要注意

課題レポート (2/2)

提出要件

- A4 用紙 2 枚
 - マニュアル本体 (1 枚)
 - 解説 (構成意図やポイントなど) (1 枚)
- 次回講義終了時に出力紙提出

次回の予定

実習（操作情報）

- 課題レポートを元にグループワーク